

# 古墳時代石製品の分布と流通

京都大学文学研究科 二村真司

## テーマ

- ①古墳時代前期に盛行した碧玉・緑色凝灰岩製石製品は、製作後どのような流通・保有を経て副葬されたのか
- ②石製品の流通のあり方やその背景にある集団・個人の諸関係は地域や時期によって変化するのか

## 1：石製品の流通に関する研究とその課題

(1) 石製品流通研究の視点

【アプローチA：階層性】

- ・腕輪形石製品 3 器種の分布域の違い [小林 1957]
- ・腕輪形石製品 3 器種の組合せによる階層表示 [北條 1990]
- ・車輪石のサイズによる階層表示 [三浦 2005]

【アプローチB：系統性】

- ・同一古墳に副葬された石剣の斉一性⇒系統性の否定 [蒲原 1987]
- ・石製品各器種を横断する石材と装飾表現の系統性 [岡寺 1999]

【アプローチC：中心性／地域性】

- ・畿内中枢への集中（鉄形石＞車輪石＞石剣）[下垣 2011 等]
- ・一部の石剣の「非畿内的な分布」[蒲原 1987]
- ・畿外における多器種多量副葬例の存在 [中上 1977]

【アプローチD：銅鏡との比較検討】

- ・共伴や分布状況の一致を評価 [小林 1957]⇒[川西 1981・下垣 2011]
- ・非共伴と分布の不一致を重視 [小林 1957]⇒[中上 1977・青木 2001]

(2) 石製品流通研究の課題

- ・列島規模の大局的な分布状況や一部地域の分析に留まり、各出土事例の評価の蓄積による悉皆的な研究に乏しい
- ・石製品の存続期間すべてが一様に扱われ、編年研究を反映した流通の時間的変化が検討されていない
- ・石製品が媒介する集団／個人の諸関係が中央―地域間関係への言及に留まり、地域内関係に分析が及んでいない

## 2：分析の手法と視角

(1) 分析の手順

- ①石製品の分布地域を対象として各出土事例の製作時期・流通時期・副葬時期を明らかにする
- ②石製品流通の4つの分析視角（下記）から地域あるいは時期ごとに特徴的な流通・保有・副葬のあり方を抽出
- ③各地域の事例を比較検討し、②を類型化⇒流通類型の空間的配置を検討

(2) 石製品の製作時期・副葬時期

- ①製作時期…発表者の石剣編年 [二村 2022] に依拠
- ②副葬時期…①及び三角縁神獣鏡 [岩本 2020 等]・倭製鏡 [下垣 2003 等]・円筒埴輪 [廣瀬 2015] 編年より決定

(3) 石製品流通の分析視角

①流通時期…どこかで保有後に流通か、流通先で保有されたか

【要素X：同時期に出現した他の器物の共伴】

- 製作時期が同じ石製品と他器物が、後に築造された古墳で共伴⇒これらは製作から間もなく同時に移動した可能性が高い

【要素Y：石製品製作時期における造墓活動や有力集落／居館造営】

- 石製品の製作時期に流通先で造墓活動や有力集落／居館造営⇒器物を入手し、保有する下地が整っていると考えられる

【要素Z：同時期に出現した資料の継続的な副葬】

- 同時期製作の石製品が、流通先で古墳に累代的に副葬される⇒流通先で保有されながら少しずつ副葬された可能性が高い

②流通形態…石製品が製作後にどのような経路で流通したのか

- 副葬石製品群の組成が単一の製作地による（単一的組成）⇒製作地から石製品が直接流通した蓋然性が高い⇒集積・配布主体を介さない自律的な流通形態

- 副葬石製品群の組成が複数の製作地による（複合的な組成）⇒複数の製作地から集積された石製品が混合した上で流通か⇒集積・配布主体を介する他律的な流通形態

③保有主体…個人が保有していたのか、集団が保有していたのか

- 保有期間が3小期に跨る…世代を超えて保有が継続⇒保有主体は集団であったと判断（属集团的）

- 保有期間が1～2小期に収まる…入手世代のうちに副葬⇒保有主体は個人であったと判断（属人的）

④格差表示…域内流通はどのような関係を媒介したか

- 古墳による格差表示…墳丘形状や規模／埋葬施設的位置や種類
- 他の器物による格差表示…三角縁神獣鏡の数／倭製鏡の面径⇒石製品の器種の組合せ・点数による階層との連動性を分析⇒域内の石製品が媒介した階層関係の有無を検討

## 3：各地域のケーススタディと流通類型の設定

(1) 桂川上～中流域

①流通時期：製作後まもなく流通

- ・園部垣内古墳は前期中葉～後葉後半に入手⇒地域側で長期保有
- ・その他の事例は前期後葉後半に限定

②流通形態

- ・複数の製作地に由来する資料が混在⇒集積・配布主体を介した他律的な流通

③保有主体

- ・園部垣内古墳…集団による保有
- ・その他の事例…個人による保有

④格差表示

- ・車輪石／鉄形の有無や石剣の点数で格差⇒各事例の墳丘形態や規模と対応⇒倭製鏡の面径や三角縁神獣鏡の有無と対応

【類型1】他律継続型…備前／伯耆東部地域も

- 入手：特定の有力集団が長期間にわたり集積・配布主体から独占的に入手

流通：有力集団が周辺の諸集団（or 個人）へ格差を付けながら二次的に配布（墳丘や他の副葬器物も連動）

⇒「畿内中枢に由来する格付けを、自地域・自集団の序列を創出・維持するべく」「同型的に反復」[下垣 2011]

保有：再配布された石製品はすぐに（≒同世代内で）副葬⇒長期保有を制限…個人間関係を副葬行為で固定化？

○集積配布主体⇒域内の最有力集団：流通を差配（長期間にわたり特定集団を優遇）・保有制限はなし

○域内の最有力集団⇒域内の各個人：流通を差配・自集団と他個人との間に格差付け・保有制限はあり

(2) 淀川右岸

①流通時期：製作後まもなく流通

- ⇒小期ごとに流通の核が移動
- ・東部：前期後葉後半にピーク・長期保有あり
- ・中部：前期中葉にピーク
- ・西部：前期後葉前半にピーク・長期保有あり

②流通形態

- ・複数の製作地に由来する資料が混在⇒集積・配布主体を介した他律的な流通

③保有主体

- ・集団による保有

④格差表示

- ・石製品の格差は副葬古墳の形態や規模と連動
- ・倭製鏡の面径や三角縁神獣鏡の有無と対応⇒古墳（群）間や小地域間の格差表示が顕著

【類型2】他律遷移型…男山丘陵、現神戸・明石市域も

入手：石製品の重点配布対象集団を頻繁に変更する戦略が集積・配布主体によって採られ、各集団は序列化される流通：石製品流通は集積・配布主体によって強くコントロールされ、格差付けは墳丘や他器物にも反映される保有：保有制限はなく、石製品を入手できなかった集団は以前入手して長い間保有されていた石製品を副葬に回す○集積・配布主体⇒域内の諸集団：流通を差配・集団間の格差付け・保有制限はなし

(3) 丹後地域

①流通時期：前期後葉前半に限定

⇒製作後間もなく流通・長期保有あり

②流通形態

- ・複数の製作地に由来する資料が混在⇒集積・配布主体を介した他律的な流通

③保有主体

- ・集団による保有

④格差表示

- ・カジヤ古墳の石製品の組合せ・量が突出⇒墳形や規模の格差は不明瞭（円墳 or 方墳）
- ・2つの埋葬施設に鉄形石・車輪石を分葬⇒主体部間の格差付けの意識が弱い⇒石製品の格差と古墳で表示される格差はリンクせず、域内を律する階層構造ない

【類型3】他律短型…現広島県／福井県域も

入手：器種・点数で格差付けられて集積・配布主体から域内の集団へと配布される流通：域内流通を差配した集団は存在せず、石製品の格差は他器物や副葬古墳の格差とリンクしない保有：保有制限はなく、保有や副葬のあり方も各々の保有集団に任されていた○集積・配布主体⇒域内の諸集団：流通を差配・集団間の格差付け・保有制限はなし⇒他要素で格差付けが徹底されず、集積・配布主体側の意図に地域側が呼応しなかった

(4) 木津川中流域

①流通時期：前期中葉～後葉後半

⇒製作後間もなく流通し、すぐに副葬される

②流通形態

- ・複数の製作地に由来する資料が混在⇒集積・配布主体を介した他律的な流通
- ・副葬事例によって異なる石製品の組成⇒流通を差配する組織／構造が複数存在？

③保有主体

- ・個人による保有

④格差表示

- ・石製品の格差は副葬古墳の形や規模と不連動⇒小規模墳への多器種・多量副葬
- ・倭製鏡や三角縁神獣鏡の格差とも連動しない⇒古墳や小地域間の格差表示とは言えない

【類型4】他律個別型…桂川下流右岸も

入手：集積・配布主体から個人へと配布

流通：域内流通を差配した集団は存在しない

石製品による格差は他の副葬器物や墳丘形状・規模とリンクせず、個人間における格差付けの意図が希薄

保有：石製品は同時期（≒同世代）のうちに一斉に副葬される⇒集団による保有を制限

○集積・配布主体⇒域内の諸個人：流通を差配・集団間の格差付けなし・保有制限あり

⇒集積・配布主体は格差付け以外の意図で副葬器物を配布か（モノによる格差付けを伴わない個人の把握）

(5) 東海東部地域

①流通時期：前期中葉～後葉前半

⇒製作後間もなく流通し、すぐに副葬される

②流通形態

- ・加賀南部地域で作られた資料が集中⇒集積・配布主体を介さない自律的な流通⇒流通量が減衰せず東方へ波及か

③保有主体

- ・個人による保有か？

④格差表示

- ・格差付けは不鮮明・複数器種傾向⇒古墳形状・規模に大差なし⇒車輪石の小規模墳副葬例⇒地域を律する階層構造は見られず、同列的⇒個人同士の同列的な相互関係の中で流通か

【類型5】自律型…関東地域も（前期後葉前半）

入手：域内／外の製作地から直接入手

流通：特定集団／個人による流通の差配はない

⇒比較的同列的な相互関係の下で流通か⇒長期間継続せず流通が停止（東海東部）

他の流通類型に変化（関東地域）

保有：保有制限はなく、保有や副葬は自由

○流通・保有のコントロールを認めない

## 4：流通類型の空間配置

○奈良盆地からの距離に応じ、集積・配布主体

による流通・保有のコントロールが遞減

（≒流通先の流通・保有の自由度が増大）

①他律個別型：木津川中流域と桂川下流右岸

②他律遷移型：淀川の両岸や現神戸・明石市域

③他律継続型：桂川上中流域や備前・伯耆東部

④他律短型：丹後地域や現福井県・広島県域

⑤自律型：東方の遠隔地域

※完全な同心円状配置とはならず、モザイク状に変化

## まとめ

(1) 流通時期…製作から副葬まで懸隔がある場合、多くの場合で流通時期は製作時期に近い

⇒製作後まもなく流通が基本（※鉄形石と一部の車輪石は流通時期が副葬時期に近い）

(2) 流通形態…集積・配布主体を介した他律的な流通 vs 製作地から直接流通する自律的な流通

⇒西日本：集積・配布主体を介する他律的な流通⇨東日本：集積・配布主体を介さない自律的な流通

⇒近畿中央部：集積・配布主体内部の節制的なあり方を反映し、組成に偏りが生じる

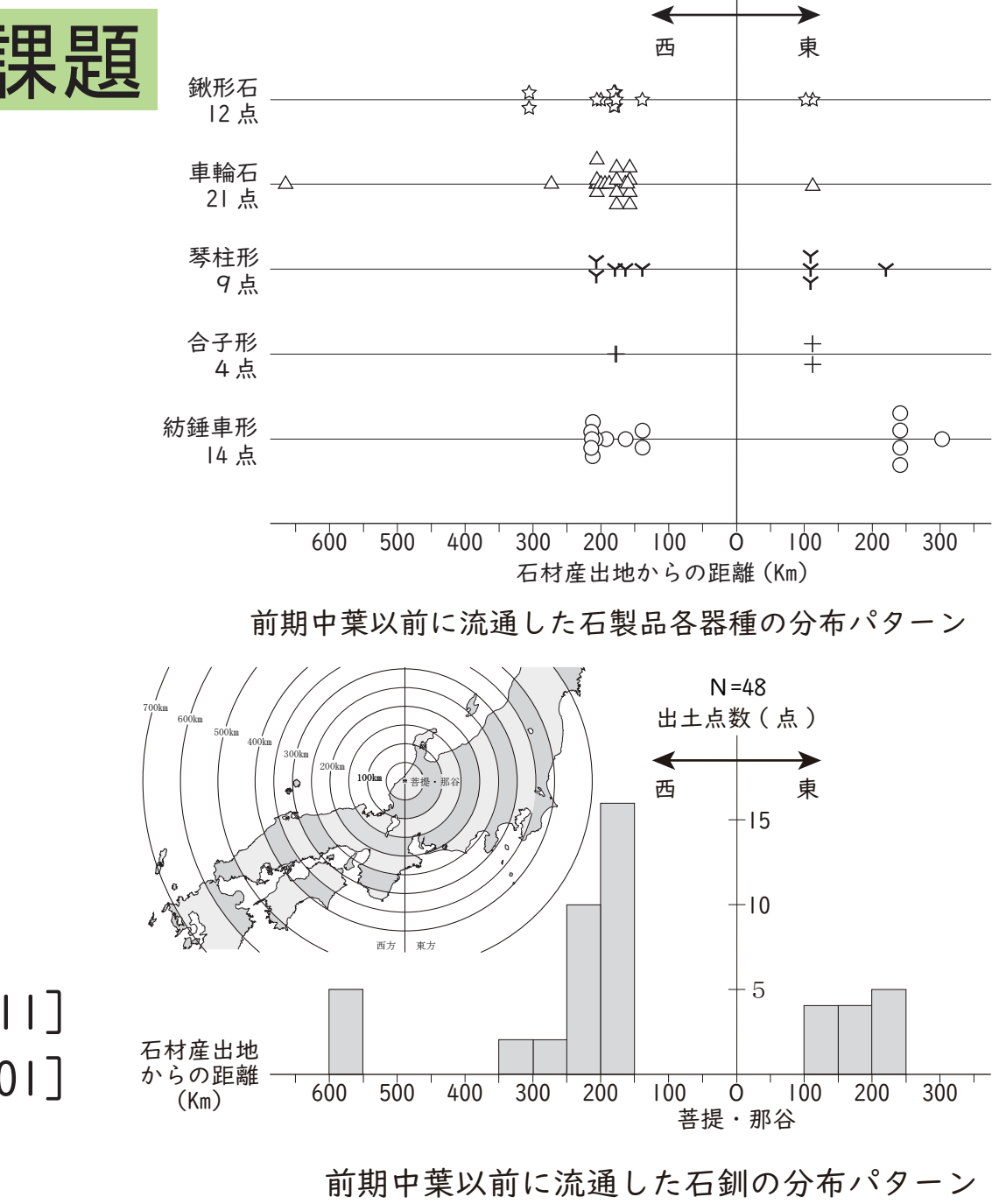
(3) 保有主体…集団の場合が多いが、流通・保有へのコントロールが強いと長期保有が制限され、個人となる

(4) 格差表示…集積・配布主体側の格差付け意図と、流通先集団／個人側の呼応・再生産の有無によって変動⇒自律型の流通類型の場合は流通のコントロールは作用せず、同列的に石製品が流通

(5) 流通類型とその配置…奈良盆地からの距離に応じ集積・配布主体による流通・保有のコントロールが遞減⇒奈良盆地から離れるほど地域側の集団／個人の流通・保有の自律性は増大

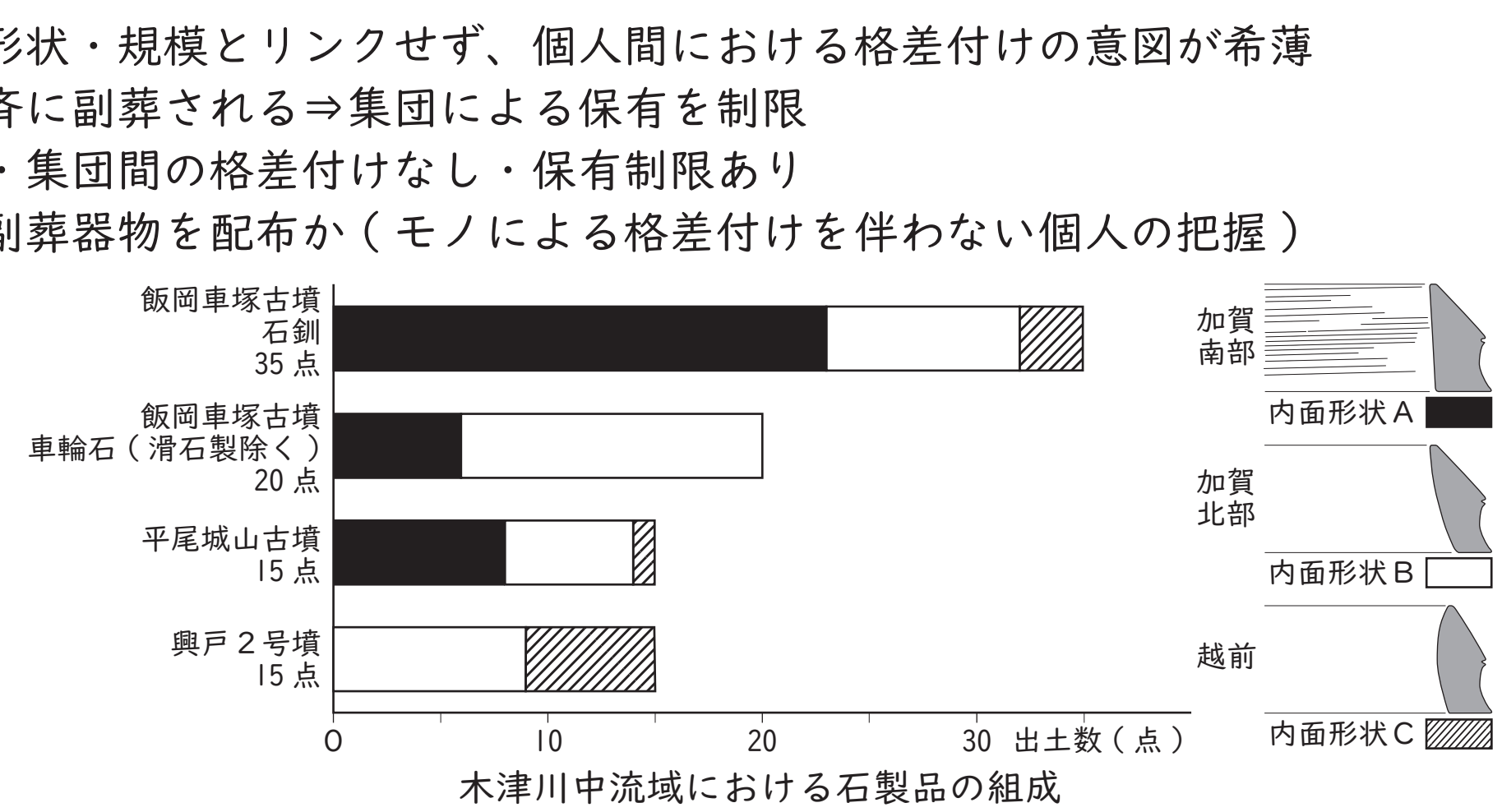
【参考文献】

- 青木 敬 2001 「石製腕輪の副葬―前期古墳の評価をめぐって―」『東京考古』19、東京考古談話会、27-45 頁
- 岩本 崇 2020 「三角縁神獣鏡と古墳時代の社会」六書房
- 岩本 崇 1999 「石製腕輪の副葬と―材料・製造方法に着目した視点―」『考古学ジャーナル』No.453、ニューエイスエ社、24-27 頁
- 廣瀬 宏行 1987 「石剣研究序論」増田時一編『比較考古学試論』雄山閣、103-169 頁
- 川西 敬孝 1981 「前期畿内政治論」『史料』第4巻第4号、史学研究会、110-147 頁
- 小林 正樹 1957 「加賀南部地域の考古学」『石川県史』第4巻第4号、史学研究会、1-25 頁
- 下垣 志 2003 「古墳時代前期後葉の副葬」『古文化雑誌』第49巻、九州古文化研究会、19-50 頁
- 中上 原子 1977 「石製腕輪の副葬」『古文化雑誌』第49巻、九州古文化研究会、19-50 頁
- 二村 真司 2022 「石剣の生産と流通」『考古学雑誌』第69巻第1号、考古学研究会、18-42 頁
- 廣瀬 宏 2015 「古墳時代の形成と地域社会」『東洋学』第69巻第1号、考古学研究会、18-42 頁
- 北條 芳隆 1990 「鉄形石製品の成立」『倭山論叢』史学叢書24号、大阪大学文学部、73-96 頁
- 三浦 俊明 2005 「車輪石生産の展開」『倭山論叢』史学叢書24号、大阪大学文学部、73-96 頁



生産地域	集積・配布主体	丹後地域の石製品出土古墳					
		北谷1号墳	離瀬古墳	カジヤ古墳	大田南6号墳	作山1号墳	作山5号墳
前期中葉							集積・配布 ⇒ 保有・副葬
後葉前半	石剣 車輪石 鉄形石 加賀南部 加賀北部 越前	鉄形車形1 ↓ 副葬	石剣1 ↓ 副葬	鉄形石2 車輪石1 石剣2 ↓ 第1主体 副葬	鉄形石2 車輪石1 ↓ 第4主体 副葬	石剣2 ↓ 副葬	石剣3 ↓ 副葬
後葉後半							
末葉～中期			副葬				
副葬器種・点数		鉄形車形1	石剣1	鉄形石2 車輪石1 石剣2	鉄形石2 車輪石1	石剣2	石剣3
三角縁神獣鏡面数・倭製鏡面径 (cm)		0・なし	0・7.5	0・13.5	0・なし	0・なし	0・10.5
墳形・規模 (m)		円 (40)	方 (35×32)	円 (73×55)	円 (29)	造出し付円 (36)	方 (13×10)

生産地域		木津川中流域の石製品出土古墳（群）						
集積・配布主体		西山古墳群	尾塚古墳群	興戸古墳群	飯間車塚古墳	飯間山古墳群	平尾城山古墳	瓦谷1号墳
中葉	石剣 加賀南部 ↓ 集積	配布 石剣1 副葬 2号墳						石剣2
後葉前半	石剣 車輪石 鉄形石 加賀南部 加賀北部 ↓ 集積	配布 鉄形5 石剣 副葬 3号墳		車輪石 20 石剣 32 合子形1			石剣 10 車輪石 2	副葬
後葉後半	石剣 車輪石 鉄形石 加賀南部 加賀北部 越前 ↓ 集積	配布 鉄形石 車輪石 石剣 副葬 4号墳	石剣 副葬 4号墳 方墳	鉄形石 車輪石 石剣 副葬 2号墳	石剣3 車輪石3 副葬	鉄形9 石剣1 副葬 3号墳		鉄形3 副葬
末葉以降		集積・配布 保有・副葬						
副葬器種・点数		2号：鉄1 3号：鉄5 車輪石7 7号：鉄1	3号：鉄5 車輪石7 7号：鉄1	2号：鉄10 3号：鉄5 鉄15 鉄43 合子1	鉄1 車輪石20 石剣32 合子1	2号：鉄1 3号：鉄5 鉄15 鉄43 合子1	車輪石2 石剣13 鉄1 鉄1 鉄1	鉄形3
三角縁神獣鏡面数・倭製鏡面径（cm）		2号：(1)・11.4 3号：0・なし 6号：(1)・21.4 7号：0・なし	3号：0・なし 4号：0・なし 7号：0・なし	2号：0・12.2 3号：0・なし 7号：0・なし	2号：0・なし 3号：0・なし 7号：0・なし	2号：0・7.4 3号：0・13.4	1・16.7 3号：0・13.4	0・(11.6)
墳形・規模（m）		2号：方 (25) 3号：方 (18) 6号：方 (10) 7号：方 (2)	3号：方 (18) 4号：方 (35) 7号：方 (2)	2号：円 (28) 3号：方 (90) 7号：方 (55)	2号：円 (27) 3号：方 (40)	2号：方 (110) 3号：方 (51)	方 (51)	



生産地域	流通集積配布	東海東部地域の石製品出土古墳					
		廣中塚古墳	松林山古墳	若王子12号墳	約瓶塚古墳群	三池平古墳	東坂古墳
前期中葉	石剣 墓柱形 加賀南部 ↓ 集積		石剣2 墓柱形1 ↓ 副葬				流通・集積・配布 ⇒ 保有・副葬
後葉前半	石剣 加賀南部 車輪石 加賀南部 鉄立形 不明（加賀？）	石剣 ↓ 集積	車輪石1 石剣 ↓ 副葬	車輪石1 ↓ 副葬	鉄形車形2 ↓ 副葬4号墳	車輪石1 石剣 鉄立形4 ↓ 副葬	石剣1 墓柱形3 ↓ 副葬
後葉後半	墓柱形 糸島川 流域？						
末葉～中期							
副葬器種・点数		車輪石1 石剣1	石剣2 石剣1	車輪石1	鉄形車形1 鉄形車形2	車輪石1 石剣1 鉄立形4	石剣1 墓柱形3
三角縁神獣鏡面数・倭製鏡面径 (cm)		0・なし	1・28.7	0・なし	0・なし (13.5)	0・19.5 (14.2)	0・17.4
墳形・規模 (m)		方 (約90)	方 (107)	方 (18×11)	方 (13.5×14.2)	方 (65)	方 (60)

	自律型	他律短型	他律継続型	他律遷移型	他律個別型
流通元	北陸／域内製作地	集積・配布主体	集積・配布主体	集積・配布主体	集積・配布主体
流通先	域内の広域に波及	固定・短期連続	特定集団に固定・継続	時期により変化	分散
流通形態	域内の	他律的	他律的（域外・域内）	他律的	他律的
二次的配布	なし	なし	なし	なし	なし
コピ	なし	集積・配布主体による格差付けの意図が強い	集積・配布主体による格差付けの意図が強い	集積・配布主体による格差付けの意図が強い	集積・配布主体による格差付けの意図が強い
コピ	※鉄形石の流通制限はあり	集積・配布主体による格差付けの意図が強い	集積・配布主体による格差付けの意図が強い	集積・配布主体による格差付けの意図が強い	集積・配布主体による格差付けの意図が強い
保有主体	域内の各集団／個人	域内の各集団	最有力集団	域内の各集団	域内の有力個人
長期保有	あり？	あり	あり	あり	集積・配布主体あり⇒集団・長期保有の制限
コピ	なし	なし	集積・配布主体：なし 域内最有力集団：あり ⇒集団・長期保有の制限	なし	集積・配布主体：あり ⇒集団・長期保有の制限
格差付け	不明瞭	不明瞭	顕著（墳丘・副葬器物も）	顕著（墳丘・副葬器物も）	不明瞭
コピ	なし	なし	集積・配布主体：なし 域内最有力集団：あり ⇒集団・長期保有の制限	なし	集積・配布主体：